

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表：2022年2月15日

事業所名 ナナホシ岐阜事業所

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	<input type="radio"/>		動と静の活動のスペースの確保など工夫している	
	2	職員の配置数は適切である	<input type="radio"/>			
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		<input type="radio"/>	支援室の窓にテープを貼りその間で窓を開けるようになっている	窓の工夫はしているが突発的に窓を開ける児童もいるので、固定できるもので対応していく
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	<input type="radio"/>		始業終業のミーティングで話し合っている	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	<input type="radio"/>		日々の関わりで意向等をつかんで改善に繋げている	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	<input type="radio"/>		自社ホームページで公開している	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		<input type="radio"/>		第三者評価を行っていない
適切な支援の提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	<input type="radio"/>		全事業所で同じ研修を受け会社全体で同じ内容を把握できるようにしている	
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	<input type="radio"/>		職員間で共有し、主体性と客観性を交えて行っている	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	<input type="radio"/>			
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている		<input type="radio"/>		プログラムは作っていない
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している		<input type="radio"/>	その時の児童たちの課題に対して合わせた活動ができるようにしている	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	<input type="radio"/>			
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	<input type="radio"/>		それぞれの児童に合わせて対応している	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	<input type="radio"/>		始業終業のミーティングを行い、役割分担できている	必要に応じて、児童の担当スタッフを決めている
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	<input type="radio"/>		その日のうちに改善することなども話あっている	
17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	<input type="radio"/>				
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	<input type="radio"/>		担当からの報告もあり職員間での情報を共有し計画に反映している		
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	<input type="radio"/>				

関係機関 や保護者 との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参加している	○		児童発達支援管理責任者を中心に参加している		
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		学校・家庭・児童と連携をはかっている	送迎時などに行っており、必要があればケース会議もやっている	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○			医療的ケアの必要な利用者を受け入れていない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている					行っていない。必要に応じて連携していく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○			移行した児童がいない 今後、必要に応じて連携していけるようにする
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			電話などで共有できている	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○			新型コロナウイルス流行中の為、児童館を利用していない
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○				
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			送迎の際に保護者と共有している状況に応じて、家庭訪問などを行っている	
保護者への 説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○				新型コロナウイルス感染症流行中のため行っていない
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			契約時に説明をしている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			送迎時や必要であれば時間を作りお話をすることができている	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○			新型コロナウイルス感染予防のため開催していない、落ち着いたら開催していく
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			管理者を苦情解決の責任者に置き対応している/迅速な対応を心掛けている	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			毎月広報を出し活動の様子や行事予定を発信している	
	35	個人情報に十分注意している	○			施錠をして保管している	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			家庭状況に合わせて対応している	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○			地域の方を招待する行事は行っていない

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	<input type="radio"/>		契約時に保護者に説明している	職員全員に配布をして定期的に確認できるようにしていく
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	<input type="radio"/>		消防計画に沿って行っている	土曜日に避難訓練を取り組むことが多いため平日にも取り組めるようにしていく
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている		<input type="radio"/>		新型コロナウイルス感染症流行中の為行っていない 今後、職員全員が研修を受けれるようにしていく
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	<input type="radio"/>			必要があれば、保護者と連携しながら個別支援計画書に記載していく
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	<input type="radio"/>		保護者と相談して対応することができる	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	<input type="radio"/>		分かりやすい場所に置き、常に把握できるようにしている	